

令和6年白老町議会産業厚生常任委員会会議録

令和6年5月24日（金曜日）

開 会 午後 1時28分

閉 会 午後 2時30分

○会議に付した事件

所管事務調査

1. 高齢者の生活支援サービスについて
 2. 分科会のまとめ
 3. その他
-

○出席委員（7名）

委員長 森 哲也 君

副委員長 飛 島 宣 親 君

委員 水 口 光 盛 君

委員 田 上 治 彦 君

委員 氏 家 裕 治 君

委員 西 田 祐 子 君

委員 前 田 弘 幹 君

○欠席委員（なし）

○職務のため出席した事務局職員

主 幹 小山内 恵 君

書 記 中 陳 優 介 君

◎開会の宣告

○委員長（森 哲也君） ただいまから産業厚生常任委員会を開会いたします。

（午後 1時28分）

○委員長（森 哲也君） 本日の調査事項といたしまして、高齢者の生活支援サービスについてのまとめ作業に入りたいと考えております。今回の事務調査は4月24日と5月23日の2回にわたって行いました。その中で質疑と意見が出されまして、委員会意見を簡単ではありますが書面にまとめてみました。皆さんには、意見の漏れがないか、まずその点についてご確認をいただきたいのと、昨日、参考人の方からの意見を聴取しました。それを踏まえた上で意見ございましたら、さらにこちらに追記しますので、委員の皆さんの意見をお聞きしたいと考えております。まず、私のまとめたものをご一読いただければと思います。

追加の意見、修正等々があります委員おられましたら、挙手の上発言をお願いいたします。

水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） 水口です。昨日、政策推進課に来ていただいたときに、前田委員の言っていた虎杖浜から登別までの延伸が抜けている。そこは重要かと思うのです。虎杖浜の方の生活圏が登別市だとすれば、自治体間を超えられないということはありますけど、できないではなくてやるべきだと思うので意見は入れたほうがいいのではないかと思います。

○委員長（森 哲也君） 足の確保におきまして、水口委員からいただいた意見は重々大事だと考えますが、今の意見もさらに追記で盛り込みたいと思います。

ほかにご意見の追加等々ありますか。

暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時31分

再開 午後 1時32分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じて会議を再開いたします。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 西田です。昨日、事務局を通して自治体の消滅都市で、皆さんに図面、自治体の人口特性9分類結果北海道を差上げたのですけれども見ていただけでしょうか。それを見て、白老町が自治体の中で消滅自治体としてかなり危険なところにいることがお分かりになると思うのです。これでいったら70%近く厳しい。白老町は全体的にバスとかにかなりお金はかけているけど、ここにも一応説明は書いているけど、予算をかけている割には地域公共交通とか福祉有償バスとか縦割り行政になっていて一緒に議論していかない、こういうことを行政は分かっているのだから、当然そこはきちんと縦割りではなく一緒にやっていくべきだと思うのですけど、なかなかそこが一体になってやっていない。だから、昨日来られた、社会福祉協議会とか福祉有償運送の方々はみんなお金がなくて大変と言いながら、片方はお金をた

くさんかけていながら乗っている人が少ないという矛盾が出てきているのではないかと思うのです。その辺を解消するには、一つになってやっていってもらいたいと思うのですが、ほかの皆さん方の意見は分かりませんが、大きくはそう思います。

○委員長（森 哲也君） 氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。西田委員の言われたことはそのとおりだと思うし、行政も分かっているのだと思うのです。福祉有償サービスとか地域公共交通から離しているわけではなくて、一体として見る言い方をしているから、その取組がまだ浅いのだと思うのです。この間の話を聞いたときも、要はこれから10年後20年後のことを考えたときの、持続可能な地域公共交通の在り方を今からちゃんと議論していかないと、ライドシェアにしても各地域の声を聞くのはここに出ているから、きちんと聞かなければだめだから、道南バスをどうのこうの言う前に、町内の5地区か6地区をぐるぐる回れるような、手を挙げて乗れるような交通システムをつくり上げていかないと、これから高齢者は増えていく、どんどんバス停まで来られない人が多くなっていく、福祉有償まではいかないけどもグリーゾーンの人たちが増えてくるのは目の前に迫っていることだから、真剣に考えていると思うけれども議会としてもう一押ししていくべきではないかと思うのです。

登別延伸はそのとおりです。登別延伸についても水口委員から出ていたけれども、これは前回改選前のこの常任委員会の中で陳情を受けて採択している問題だから、これはしっかり取り組まなければいけないのです。そこには大きな壁があるにしても、それは消滅自治体と言われるまちを国が守ってくれるわけではないのだから、私たちのまちは私たちが守っていかなければならないという思いで、国にもしっかり要望を出していくとか何か方法がないかとしっかり取り組むことが大事だと思います。

○委員長（森 哲也君） ほかにご意見のある委員いらっしゃいますか。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 飛島です。昨日、わらびの星さんからあったのですが、使える制度、助成金など国や道からもらえるものをフル活用しなければならないと言っていたので、そうだと思うし、もちろんそういう方向で私たちも動いていかなければだめだと思うのですが、配車のコーディネーター、タクシーで言えば配車係、交通費の面、ルート、往復の時間調整など高齢者の方の意見を聞いて配車をする。有償運送であれデマンドであれ、用途に応じた運送会社を高齢者に向けてあげることも考えていったほうがいいのかと思いました。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 飛島委員が言ったのはAIを使って最近よく自治体でやっています。スマホで予約して登録してAIで自動的にやる、そのようなことを言っているのですか。

○委員長（森 哲也君） 飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） それもあります。勉強不足でそこまで知らなかったのですが、その前に行政が窓口になってオペレーター、コーディネートできる仕組みをつくって、高齢者から連絡が来たら、こういう状況だったらこういった感じの車をそちらに向けますと、往復を

考えて最初はデマンドが行きます、帰りは時間帯がそうであればわらびさんを向けますとか、その人の用途に応じて配車したらどうかと。

○委員長（森 哲也君） 氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 言っていることは分かるのだけれども、要は現存する白老観光、先ほど言った地域公共交通、福祉有償運送。こういったものを将来的にどうやって組み合わせさせてやっていくかとなったら、それに特化しているのは白老交通だと思うのです。オペレーター的なものをどのようにセットするか分からないけれども、白老交通が中心になってライドシェアの問題、各地域公共交通の問題を行政と話し合いながら進めるべきではないかと思うのです。白老交通、タクシー業界の壁があるから行政としっかり協議しながら、それだったらうちの人材不足を補っていけるとか、いろんなメリットもなければ当然取り組めない、それが一番いいのかと思うけれども、いずれにしても仕組みづくりをちゃんとしていかなければいけない。今すぐには転換はできないと思うから、それまでの間の直近で考えなければならぬ部分と中期長期的に考えなければならぬことを議会として言っていくのが大事なのかと思います。

○委員長（森 哲也君） 前田弘幹委員。

○委員（前田弘幹君） 氏家委員が言ったように、現実問題、昔は白老交通さんの営業所が虎杖浜にあって今はないのです。北吉原もほぼないのです。暇だったら行ってくれるのだけど、現実ほかに迎えに行っても来られないのです。そうなったときに、虎杖浜地域の人がデマンドを使わないでタクシーで行こうと思っても来てくれないのです。虎杖浜まで行って虎杖浜から登別まではあり得ないのです。これも第2、第3の手法としては、白老交通さんも入れてある程度議論していかないと、白老交通さんは本気の仕事だからなかなか損することはしないのだけど、町からも当然仕事として請け負っている部分もあるし共存していかないと厳しい部分がある。どこまでが本業、どこまでが半分ボランティアとしてかやっついていかないと。ライドシェアもよく言われているのが最終的に地元のタクシー会社がうんと言わないとできないと言われてるので、今のままではうんとは言ってもらえない。社台の人が苦小牧、当然理屈としては同じです。そうなった場合に、バスとかカムイ号をなくしたときには選択肢が何もありません。お金払って乗りたくても乗せてもらえないのが現状なので一度公共交通、民間有償交通、法人タクシーも合わせて考えるべきだと思うので、ぜひ合わせてやっていただきたいと思います。

○委員長（森 哲也君） 氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 今言ったことはそのとおりです。要は、今やっている地域公共交通に対するお金は莫大にかけているわけです。白老交通にオペレーター機能を持たせるのは大変なことです。それは、公共交通全体を白老交通にある程度委託できたときには、今のお金で町民みんなが満足しているのだったら、そのくらいのお金を払っても全然問題はないわけです。白老交通も人材不足、運転手の問題を持っている。ライドシェアにしてもいろんな問題を行政と情報共有しながら、何とか頼むと協議の場が持てればいいことだと思うのです。これは将来的なものだけ。

○委員長（森 哲也君） 水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） 氏家委員が言われたように将来的なもの、白老交通さんを巻き込んだ今のお金が効率よく回るやり方をしなければいけないのが1点と、昨日事業者さんから聞いたどう考えても財政状況、今できること、来年から直ぐできることと考えると車両の補助金、ガソリンの補助金。人に出す補助金はなかなか難しいけど、20万円、30万円の車で運送するよりは、それを元手に半分でも補助金を出して60万円、70万円の車ぐらいでやるのが近々に必要なことのような気がします。ちょっと言っていた、地域交通にはこれだけのお金をかけて人を乗せないで何倍もガソリン代をかけて、あれは本当に本音だと思うのです。我々はこれでやっている、年金とか。そこは強く議会として来年予算化して補正でもやって、まず目先でやる。先ほど言った将来は将来でやるしかないと思います。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 水口委員は来年でもと言っていましたけど、今年度からでもしてあげないと来年辞めますとあっさり言われたらどうしようもならないのです。だから、今年度からでもやってあげることがすごく大事なのではないかと思います。皆さん乗ったことあるかもしれないけど、実際にやっている人たちの車、びっくりするくらいポンコツです。私は前からわらびさんにも言っているのです、夏はまだいいけど冬の道の悪いとき、天候の悪いときに軽自動車に自分の親が乗って病院へ行くのがとても心配だと。だから、せめてもう少しいい車をと云ったら、そんなお金があるのだったらありがたいけれども、とてもではないけれどもガソリン代が高いから軽自動車しか買えない。それで本当にいいのか、町民を大事にしているとはとても思えない。D型とかB型と町はやっているけれども、あちらの補助金ばかり使っていると介護保険料が高くなってしまうから、一般会計からきちんと考えてほしいと思います。

○委員長（森 哲也君） 暫時休憩いたします。

休憩 午後 1時47分

再開 午後 2時00分

○委員長（森 哲也君） 休憩を閉じて会議を再開いたします

ほかにご意見のある委員いらっしゃいますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） なければ、本日出た意見を私の捉え違いがないか確認をしたいのですが、まず1点目に虎杖浜から登別市への延伸に取り組むべき。2点目に高齢者の足の確保を地域全体の課題として捉える持続可能な姿を目指すべきであり、全町的な交通の中心となる機関の仕組みづくりが必要である。ここがもうちょっとうまく文章にまとめようかと、ニュアンスとしては捉えています。最後に福祉有償運送の事業継続のためには早急な補助が必要だと。以上3点、本日追加になる意見と捉えましたが、間違いはないですか。大丈夫でしょうか。

氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 氏家です。今の主眼で肉づけをしてもらえれば全然問題ないと思うのです。まずは、向こうからとして、どういった意見があったかを出す。その意見を聞いて私た

ちの結果として報告。直近の解決、直近の問題点に対する対応、補助金なり支援金を年内に補正を組んでもいいから取り組むべきとなる。直近とその後で将来的なことを踏まえながら、将来的な交通網の在り方、地域交通網の仕組みづくりを考えていく、そういうときに来ていると。その中にはライドシェアにしても何にしても、白老交通を巻き込んでと肉づけしてもらえればいいのではないかと思います。今回はそういった視点で一度報告して、町長に対しての提言を後で出してもいいかもしれない。

○委員長（森 哲也君） 皆さんにいただいたご意見にまず肉づけをして文書として送りますので、さらに皆さんにも精査してもらえればと思います。文書作成につきましては、正副委員長に一任してもらえればと思います。

次に（２）分科会のまとめの意見出しに入ります。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 前回の分科会のまとめですけど、活動状況と課題・要望等は私が一応まとめたんですけど、こんな感じにしたんですけどどうでしょうか。よければ皆さんでまとめを考えていければと思ったのです。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 西田です。課題・要望等と書いてあるのは、民生委員から行政に対して要望ということですか。

○委員長（森 哲也君） 飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君） 飛島です。民生委員から行政に対しての課題・要望です。

○委員長（森 哲也君） 西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 書き方の問題だけだと思うのですが、課題・要望等と書いて何々してほしいと最後にまとめているけれども、こういう書き方をされたら議会に対して要望されているのか行政に対して要望されているのか分からないから、このような要望があった、行政に対して対処を求めるとか言葉をつけてもいいのではないかと思います。どうでしょうか。

○委員長（森 哲也君） 田上治彦委員。

○委員（田上治彦君） 田上です。活動状況の上から6行目、独居高齢者が増加している中、電気がついているか様子を見に行く、これは行動的によく分かるのですが、電気がついているかよりも安否確認に直したほうがいいのではないかと考えていまして、電気がついているか、夜しか確認していないのかとなるので、普段から確認をしている状況であれば安否の様子とか安否確認をとしたほうがいいのではと思ったのです。

○委員長（森 哲也君） 氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） 田上委員の言ったことは、独居高齢者が増加している中、毎月町広報紙を配って声掛けや夜の見守りなどを通してながら相談に乗っているという言葉に変えたら全然問題ない。毎日やっているのではないだろうけども、夜の見守りを通してながらなどとまとめたらどうなのか。

○委員長（森 哲也君） 水口光盛委員。

○委員（水口光盛君）　まとめで苦勞すると思うのでまとめてみたのですが、民生委員の職務遂行に必要な情報提供について行政（各課）において条例の解釈と運用方法について協議すると共に民生委員と行政が個人情報の取扱いについて共通認識を持てるよう行政が取り扱う、協議をするとまとめで入れたほうがいいのかと思うのです。まとめの文書が大変だと思うので、そんな感じで入れたらいいのかと思います。

○委員長（森　哲也君）　暫時休憩いたします。

休憩　午後　２時１３分

再開　午後　２時１７分

○委員長（森　哲也君）　休憩を閉じて会議を再開いたします。

飛島宣親副委員長。

○副委員長（飛島宣親君）　飛島です。前回、皆さんから出た意見をまとめに使おうと思っていたことを今口頭で言うのですが、議員、公務員、役場職員も町内会に入っているから民生委員に入っていく形にしなければならないという意見。この辺も重要なことだと思っていたので挙げたのですが、もう一つ、町内会の要望は行政に対してあるわけですから、民生委員の要望も必要だと。吉田会長から上層部、上の団体に議員の緩和もしくは役場職員の兼務など考えなければ今後の民生委員の事業は成り立たないという意見。そして、民生委員だけで頑張っても限界があるということ、PTAを巻き込み密に連絡を取り、民生委員の存在を分からない人が多いので、若い人たちを巻き込むためにも入り口としてまず民生委員とPTAと一緒に子供を見守ることが必要なのではないかという意見、いろいろあるのですが、その辺結構重要かと思ったので、まとめに入れてまとまったらまた皆さん見ていただきます。

○委員長（森　哲也君）　まとめの文書も正副委員長に一任していただき、その後皆さんに再度お諮りしたいと思います。

（３）その他に入ります。次期所管事務調査についてでございますが、年間予定では観光振興策及び駅北民活ゾーンの現状についてとなっておりますが、年間予定の計画のまま調査を行うことでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森　哲也君）　開催日時につきましては、正副委員長で調整して通知いたします。

次期分科会についてでございますが、今回は白老観光協会さんとの懇談を案として考えておりますが、皆さんのご意見をいただければと思います。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君）　観光協会でもDMOをつくりました。それも含めてやるのか、それによって話の内容が全然変わってくると思うのですが。

○委員長（森　哲也君）　水口光盛委員。

○委員（水口光盛君）　観光協会の補助金、同じく社会福祉協議会、商工会やってきた中で、観光協会の補助金は今年600万円ぐらい去年から見えてきているのです。補助金の使われ方は

どのようなのか、もしくは先ほど言ったDMOになって観光業、旅行業を取って自立していく話だったので、その辺も含めて話が聞ければと思いますので、とにかく観光協会では何か行政に不満があれば聞いて、予算が足りなければ現状を聞いたほうがいいのかと思います。

○委員長（森 哲也君） 分科会につきましては相手方との調整も必要になるので、この場でどちらの方向にいきますとは言えない部分もごございます。大卒としましては観光協会と行うことでよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○委員長（森 哲也君） こちらも開催日時は正副委員長で調整をして通知いたします。その他については以上になります。

ほかに意見をお持ちの委員いらっしゃいますか。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君） 今回、観光を取るのですけども、行政として白老町の観光にどの辺まで私たちは見るのでしょうか。大町商店街に観光客に来てもらってお店を周遊してもらおうとかいろいろやっていたけれども、ことごとく失敗しているけれども、そういうことも考えていくのか、どの辺をポイントにして考えておられるのか。委員長の考え方がありますか。

○委員長（森 哲也君） 考え方としては、観光振興策でいったら全体的にいけるかと考えがあったのですが、駅北民活ゾーンの現状について、あそこの前を通ってもチャレンジショップも空いていることと、元々駅北民活ゾーンの特別委員会が前期あったのですが、そのとき議会で状況はある程度分かっていたのですが、今の駅北の状況が分からないので、それを含めて調査をしたいと考えておりました。両方でいったら広範囲になるので。

水口光盛委員。

○委員（水口光盛君） どちらかといえば駅北民活ゾーン、特別委員会でやりながらホテルが建つとかやっていて結局は白老牛肉まつりの会場で終わってしまうのか、そこを重点的にやったほうがいいのか。先ほど前田委員が言われていたように、テナントも1つ空いている状況なので、その有効策を重点的にやったほうが良いと個人的には思っています。

○委員長（森 哲也君） 前田弘幹委員。

○委員（前田弘幹君） 前田です。観光協会に聞いても答えられないというか、言い方は変だけれども経済振興課のほぼ下請けではないかというときもあるので、観光担当者も入れてはダメなのですか。

○委員長（森 哲也君） 担当課の説明もいただきます。

前田弘幹委員。

○委員（前田弘幹君） 来るということですね。分かりました。

○委員長（森 哲也君） 氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君） やるのであったら、ウポポイを契機に駅北と大町商店街の活性化についての振興策と現状、課題についてはやはりやっておくべきだと思うのです。どうですか、ウポポイが開設して100万人を呼ぼうというほど、人は来てはいるけどきつと思ったほどではな

い。私たちが予想していたような動きではないし、そういったことで考えたら駅北もそうなのだけでも、せっかく来た人がいるのだったら何とか大町商店街を歩いてもらって、ウポポイや仙台藩白老元陣屋資料館に行ってもらえる流れはなかなかまだ思ったような動きではないと思うので、まずはこの周辺で今回やってみたらいいのではないかと。確かにやろうとすればまだまだあるけど、それはそれとして。

○委員長（森 哲也君）　そうですね。国もウポポイに力を入れて集客100万人を目指す方向性もあるので絞ったほうがいいと思っています。

西田祐子委員。

○委員（西田祐子君）　ウポポイを何とかしたほうがいいと思いつつも、現実的にはポロトのキャンプ場が4月から10月まで。冬は国有林だから全然だめなのです。ウポポイは観光客に1年365日来てほしいと思っているのだったら、そういうところも見ないと、観光客の立場になってみたら白老にせっかく足を止めて来ても見に行くところがない。結局違うところになってしまうのが当たり前の話だし、ウポポイを中心にして白老のまちに観光客が来てくれるようになっているのかをきちんと今回やっていただければありがたいと思います。

○委員長（森 哲也君）　水口光盛委員。

○委員（水口光盛君）　こういう常任委員会は広くやってしまうとポイントが薄れてしまうので、ぐっと絞ってウポポイ、観光協会がある駅北、魅力あるところを重点的にやって、100万人呼ぶと言っていたけれども現実には20万人から30万人。では今後どうしたらいいのかをやったほうが締まるのかと。議論もあちこちに行かない。やっていた中でまた新たなことが出れば来年にやる形を取ったほうが、あちこちへ行くところかと思うのでウポポイをもっと盛り上げる、国が盛り上げる事業をやっていると言っていて、町がそれをやっていないのだったら、それについて議会としてやるべきだと提言をできる産業厚生常任委員会がいいと思います。

○委員長（森 哲也君）　次期所管事務調査に向けましては、駅北中心に大町商店街含めてウポポイを絡めた調査をしていく方向で私も担当課と打ち合わせをしたいと思います。

ほかに、その他ご意見ございますか。

氏家裕治委員。

○委員（氏家裕治君）　確かにウポポイ中心です。関連ゾーンとして仙台藩白老元陣屋資料館までは持って行くのは大丈夫ですか。確認です。

○委員長（森 哲也君）　周辺区域は様々なところがあるので。

ほかにご意見ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎閉会の宣告

○委員長（森 哲也君）　以上で産業厚生常任委員会を閉会いたします。

（午後 2時30分）